

ともしび

久留米園 喜川喜美子

青い芝の皆さん、こんにちわ。私はまだおわがりになりますが。昨年九月頃原稿を一回出した皆川喜美子です。私は今日は書きたい事がありますから書きますね。今日は少し私の事を考えてみたいと思います。

これは東京久留米園身体障害者の一室です。旧館と新館と行きました。しかし新館は、大部屋が四室あります。その中の一部屋が五人の部屋です。でも私がこんな事書くのはわがまよだと思いませんが、私は去年の三月迄旧館にいました。始めの内は大部屋もきれいでよかったです。しかし今となっては、どうにもなりません。久留米園の今の状態では、もう少し私の障害が軽かったら、小部屋へ行く事もできますが、私が小部屋に行ったら、一人で何か用があつても、人を呼ぶ事もできません。働く方がたくさんいれば、そういう事もいけれど、日本の今の状態では、そういつて何が言つても、自分の事ばかり言つていらしゃません。しかし身体障害者って、やっぱり人間であり、女だから、特に少しわけがあるのです。この事は、本当の事ですから、もし不満の点がありましたら、久留米へ見廻来て下さい。今久留米園には四十人います。その

中で三人の相薄の方がいます。この人達と一緒にいるのが、いやでこんな事を言つているのではありません。たゞ東京都にこんな施設があるといなあと思います。私達は、脳性偏屈な石橋さんという方が書いた原稿を読みました。とても良い原稿でした。私の胸に何が書いてあります。最後に私は今年の一月の終り頃に石橋さんという方が書いた原稿を読みました。とても良い原稿でした。私の胸に何が書いてあります。この機会に、お友達になりたいと思います。ではこの辺でベンをとめます。

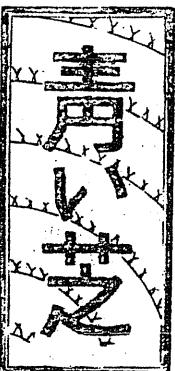
お部屋の真中に、壁が白い上をながめれば、螢光灯が一つある夜になると、明るく照らしてくれる

私が考えることは、障害の事です。人間の心も明かるくしてくれる

どんなに体が重くても、やさしい気持ちになります。この明るさは、人間の心にやさしい

私が寝ていると、ふとんの中で、夜が一番好きです。

私は考える事によって、とても、幸せを感じる。



版 47

41・5・20 発行所 世田谷区義徳一の八の一二
伊藤先生方 四二九〇八六九
社会福祉事業団体 日本脳性マヒ者協会
青い芝の会 印刷業者 広報部 三誠社 三〇〇 八八〇九

身障者問題解決する

身障者団体発行物の郵便料金問題解決する

既報のよう、身障者団体の機関紙・誌類を発送する郵便料金問題を解決する

てもらいたいといふことを、去る三月二八日、二十三団体の連名のもと橋本官房長官に陳情を行なったが、次いで五月九日、郵政大臣と各会の代表が会談をし、実質的には無料と同じ措置がとられることがなり、この郵便料金についての私たちの運動は成功した。

「青い芝」の会をはじめとして「じのめ」「東岐連」「心の灯」など代表十名程と郵政大臣、郵政局長及び白井議員の秘書の方をまじえて、三十分ほど会談が行なわれ、次のような大臣の話して問題は解決された。

身障者団体の発行物の郵便料金全体の収入からみれば極くわずかなものであるし、社会福祉ということからも無料扱いにしてかまわないと思う。

問題は、郵政大臣が特別に認可した物は云々とか、あるいは政令により定められた物は云々ということを法律に加えればよいのであるが、それを今審議されている郵便法改正案に付け加えることは、国会の関係で無理である

るの、次の国会にでもそのような事を提案して皆さんの要望に添えるようとする。

そうした法的にはつきりした措置をとれるようになるまでの間、実質的には無料と同じになるような方策をとる。

以上であるが、身障者団体機関紙・誌類の手術減免が制度化されるまでの方策について、郵政大臣は具体的な方法を示されたのであるが、その公表は他に差しさわりがあるといけないのでひかえる。

○入所生の岩井・小林君は、A・Bの医師を受けた結果は悪く、C医師に追加手術を受けています。また柿本君はA・B医師の手術を受けた後、状態が悪くなり、一年間も痛みがとれず、一生を台なしにした

神奈川支部

レクリエーション

お知らせ

神奈川支部では春のレクリエーションを次のように行ないます。皆さんふるって御参加下さい。

○四月を迎えてレクリエーションの季節になりました。皆さんはお変わりなくお元気で暮すといらっしゃいます。

金沢文庫（潮干狩をできたらします）

期日 四月二十四日（日）

集合

横浜駅東口改札

編集後記

○四月号を迎えてレクリエーションの季節になりました。皆さんはお変わりなくお元気で暮すといらっしゃいます。

○今回の会報は一年間の報告や新しい方針について編集を進めました。総会は会にとつて最も大切な事は申す迄もありませんが、皆さんのが正しく繁栄するため出来るだけ協力して下さい。

○今年度も新役員が選ばれましたので、当会の発展の為に一人一人がやれるだけの努力を願ってやみません。

○四月号は総会の都合で発行日を繰り上げましたので御承知下さい。

41年度「青い芝の会」予算案			単位：円
会 費	100,000	交 通 費 (事)	60,000
N.H.K 配 分 金	60,000	(更)	78,000
寄 附	60,000	(社)	35,000
後 援 会	72,000	(広)	10,000
雜 収 入	8,000	(教)	5,000
預 金 利 息	5,000	(組)	20,000
事 業 益 金	390,000	通 信 費	13,000
		印 刷 費	100,000
		發 送 費	6,000
		事 務 費	5,000
		雜 費 (事)	30,000
		(更)	6,000
		(社)	20,000
		(広)	13,000
		(教)	2,000
		支 部 費	60,000
		總 会 費	5,000
合 計	690,000	人 件 費	168,000
		合 計	690,000

総会の一題よし

石譜記

四月十七日、窓の外を散りおくれた桜の花
びらが春風にのって流れゆく。のどかな春
の一日と言えよう。しかし室内にはまるで異
なる世界があった。午前から午後へかけて、
のべ七十名の会員が持つて帰つたものは一体な
んだらうか。今までしばしば会報に書いて來
た会員間の断層、それはもう断層を通りこし
た二つの世界とも思えた。一方が役員を中心
とした穩健的グループとすれば片方はセンタ
ー等の出身者からなる急進的な諸君であった
こうげきの為のこうげきは、いたずらにすべ
てを停滞させるだけにすぎない。延七十名と
いう会員諸君にしても、最初から最後まで会
場にいた諸君はどのくらいいたらうか。大
半の人達は途中からちよと顔を見せたにす
ぎない。中には会場に入るとすぐ友人とれ
だつて姿を消してしまふ人もみられた。
こうした現象からみ、別項の総会議事録か
ら推つても、青い芝という海の中に、はつき
りと二つの流れがあるようと思えた。それは
丁度寒流と暖流のように、ぶつかることはあ
つても、統一した流れにはならないのではないか
と思えた。

全般的にみて役員側には議長、書記の不備
等の欠点が目立つたが、もう少しこやかな
総会になるよう努力してもらいたいものである。

泣きわめき、ねだることだらう。しかし成人した者は決してこうはしない。人の世には和といふものも大切である。他人と協調していくことによってこそ他人も私も生きられる。他人の嫌われ者となつて、どうしてひとり生きられよう。国会に陳情に行つてもよい。時には坐り込みも必要かもしれない。けれど、要はそのやり方、方法である。やくざ、グレン隊はひとに怖れられるが、どのように怖れても、他人は彼等を一人格として認めないとされわれ脳性マヒ者も一人の人間として生

「祝賀メッセージ」

第九回定期総会おめでとうございます。性マヒ者のグループとして、色々と新らしい困難な問題に、直面されながら、一つ一つ克服して行かれる貴会の真摯なご努力に、常に、心からの尊敬を禁じ得ないものです。

重度身障者の福祉は、我が国は現在でもとく後廻しにされ勝ちですが、行政面ばかりでなく、一般家庭乃至は地域社会の中にも真の福祉を阻害する多くの障壁が見出されることが少くないのであります。

そのような現状に思いをはせると、特に社会に対する啓蒙活動についての私共〇〇者自身の使命を、痛感する次第ですが、昨年度は、貴会におかれましても、地道な、社会的再教育活動に力を注がれましたことを知り、大変に意を強うした訳であります。

当ひかりの会もこの二年ほど、種々の試練に曝され、現在なお、決して楽に歩んではいませんが、漸く前途に曙光を見て居ります。何卒、今後共よろしくおねがい致します。

終りに、貴会の今後のご発展を祈りご挨拶と致します。

昭和四十一年四月一七日

ひかりの会長

三 戸 頼 雄

青い芝第九回定期総会に出席して、ズバリその所感を述べさせていただくな、いたずらに只、攻撃の為の攻撃に終始され、建設的意見がいつも吐き出されないままに終ってしまったという感深しだった。

一つの会、全国的な三百人に近い身障者の会の責任者である他、いろいろのことをしている為に、青い芝の活動に思うようにお手伝いできない私、総会に出席したのもこれで二度目という状態の私が、「何を口はばつたいことを…」と云われるかもしれないけれども先ずもって、この一年間、会の先頭に立つて働いて下さった山北会長他本部役員に出席者一同は、「ごくろうさまでした」と云はれて云うべきではなかったのか、感謝決議とはいかないまでも…、それもしないで、始めから「役員怠慢云々」とはどういうことなのだろうか。それは、会員の為に、全脳性マヒ者の為にやりたいこと、やらなければならぬ日々のことを役員の方達は充分引きまして居るのだと思う。それなら、なぜやらないのかとひとは云うかもしない。しかし、時と場合によつては、やりたいこともしないことがある。世の情勢を考え入れて、これが普惠である。大人の生き方である。三つや四つ子供であつたなら、ものが欲しかつたりとかとひとは云うかもしない。しかし、時と

「役員怠慢云々」とはどういうことなのだろうか。それは、会員の為に、全脳性マヒ者の為にやりたいこと、やらなければならぬ数々のことを役員の方達は充分わきまえて居られるのだとと思う。それなら、なぜやらないのかとひとは云うかもしない。しかし、時と場合によつては、やりたいこともしないことがある。世の情勢を考え入れて、これが智恵である。大人の生き方である。三つや四つの子供であつたなら、ものが欲しかつたりする時など、お客様の前であらうが、なからうが

「このどもの国」バス旅行
かした緑の牧場や林苑地、湖等。なまものは
財布を軽くする人工遊戯施設と。――して
はいけない」という禁制だ。
小鳥がさえずり乳牛やめん羊が草を喰む中
でおべんとうを広げるのは楽しいもの。
湖には浮橋やリスの島があり、へたすら好
きの方にはジャッパジャッパ池も用意されています。
尚今回は朝日新聞厚生文化事業団の協力に
より入園無料、交通費の半額負担となつてお
ります。

目的地 浜市港北区奈良町七〇〇番地

時 六月十九日(日) 雨天中止

交 通 ニューア室観光バス使用

參 加 費 二〇〇円(正・贊会員小人含)

集 合 場 所 新宿駅西口 安田生命前

集 合 時 間 午前八時三〇分(時間厳守)

申 し 込 み 申込み大切 六月十日迄に人數明記の上
ハガキで本部へ申し込むこと。但し満員に
なり次第打ち切ります。

△重慶の方でも集合場所までお出下さ
れば後はお世話します。

その他御相談下さい。

中央支部例会のお知らせ

「東京都肢體不自由児父母連合会」總會

「こともの国」にあるものは自然を多く生かした緑の牧場や林苑地、湖等。なほのは財布を軽くする人工遊戯施設と。——してはいけない。——といふ禁制だ。

小鳥がさえり乳牛や綿羊が草を喰む中でおべんとうを広げるのは楽しむもの。湖には浮橋やリスの島があり、へとゞき

中央支部例会のお知らせ
さわやかな五月をもう過ぎ去ろうとしておりま
すが、支部の皆さまお元気でしょうか。
さて、新年度となり、支部の方針等を話し合
い、「青年芝」をより自分達のものにして行
くよう心づきをもって参りたいと考へてまい
ります。

通志

さの方にはジャブジャブ池も用意されています。
尙今は朝日新聞厚生文化事業団の協力により入園無料、交通費の半額負担となつてお
ります。

時 日 時
五 月 二十九日(日)午後一時より
場 所 新宿区十二社二六一 同舟荘
交 通 国電新宿駅西口より、練馬・中野
車 庫 前行にて池の下車
会 費 三十円 金 沢 淑 宅

第十五回 身障者福祉展 催した。五日より二十日まで新宿小田急デパートで開催された。テレビ・洋裁・あみ物・手芸・絵などが、出品されていた。不自由者が体にむち打って作った物だと思えないほど立派な物ばかりであった。O.P.者だと思える方が、実際に作業して見ていたので、どんな体でもやる気があればある程度までは立派に更生出来るのではないかと思った。勿論即売会もして居りました。我々も大いに頑張りましょう。

午后的総会では、前年にひきつゝき有富会長を再任し散会した。

二編集後記

四十一年度の総会の記事を中心に編集した。総会の方針を考える為に、会員の意見を述べてもらったので、読んで見て、ひょりひょりが、社会制についても反省してみて頂きたう。

四十四号に施設の調査として回答用のはがきを一部の人に入れたが、その回答があまり来ない。まだの人は至急お寄せ下さい。

それでないと、調査の経過報告が出来ないので、協力をお願いします。

又、今年も私が広報部を担当します。思うようにならぬ事が多かったが、例年通り、皆さんの協力を願ってやみません。
(中村)

今度から、時折皆さんのお寄せになった、お便りをとりあげ、それに対し編集部の誰かがお返事をつけることにして致しました。その方が、よりこの会報が身近く感じられると思うからです。

卷之二

支部だより

赤支部例会報告

右月、浅田両氏の骨折りで二月二十日児童相談所で例会を開会
支部会則改正案提出承認
小泉 支部長の辞任を求めたが許されず
再任 新に副支部長に青柳よしさんが就任
新入会員のPRの運動の事
午後より浜松地区肢体不自由児の親の会と合
同し、施設やコロニーその他を話合った。
○P者にもできる仕事を分けてもらい、ある
工場の下請の障害者だけの工場を作るよう運
動するようしたい多數の意見がありました。
今後同会と連携して行きたい。春には同会と
一緒に伊東保養所、非山にある伊豆養護園を
社会見学する予定である。

城南例会

水雨が降りだした三月六日。正会員外十八名わいわいがやがや。お年頃の青年男女から六才のお嬢ちゃんまで。城西支部の役員さんがら支部方針はなんて恐い質問が出たり、○P教育と精神教育との疑問にお母さまも仲間がりしてくださって大変に話がはずんだ例会だつたと思います。お蔭で二回もおひらきを云わなければならぬ程皆さん立ち去りかねておいでのようにでした。

城南例会

会員三十円

会場 港区青山南町六の二 太田 樹宅

渋谷より都電九番線にて神宮前下

車徒歩三分 電話(08)2557

会費

日時

四月三日(日)午後一時より

います。

当日は新年度中央支部役員の承認を行な

います。

御協力ありがとう

「ブルーチップ」運動に

春風と共にオーブンが寄せられました。

前略

御無沙汰致しております。

いつも青い芝機関誌ありがとうございます。

四四号を拝見してさっそく手持ちのブルーチ

ップをお送り致します。

高校の同窓生で作ら

れています。

一日も早く自動車が手に入ります

ように……。

滝沢由紀子

千葉の施設はとり止めになりましたがこの

運動は続けて行きますので御協力下さい。

編集後記

○今回の会報は施設を中心編集しました。

念願であった施設がやれなかつたのは残念で

あります。今年度ももう終りになりますが広報部をや

つてミスばかり多く思う様に活動出来なかつ

た事を心からお詫びしております。

それにもかゝわらず例年の通りに関係者始

め皆さんの協力を得ました事を感謝します。

紙面をもってお礼申し上げます。

○今回も都合によつて予定よりおそくなつ

てしまつた事をお詫び致します。(中村)

○近来、各支部で支部報を発行する所が増え

て来ました。その中には会報にのせてもらつ

多くの会員の方に読ませたいものもありま

す。

この号に支部報の為にあつめた原稿を心良く

提供してくれた(埼玉文部)に敬意を表します。

(石橋)

中央支部例会のお知らせ

二月二十四・二十六日の三日間 春闘共闘委員会と中央社会保険推進協議会が主催する社会

保険討論集会が四回目が開かれ、その社会

福祉分科会が二月二十五日に芝公園の児童福社

会館で開かれた。

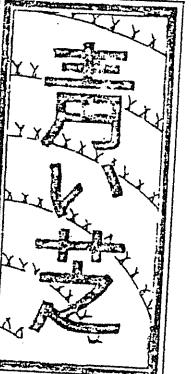
この社会福祉分科会には約五十名ほどの人

が集つたが、その三分の一程は身障者で占められた方も安の便りが聞かれる候となり、青い

芝も芽を出して緑の洋服に衣替えをしましょ

う。

施設に関するアンケートの集計をみて



No. 48

41.6.20

発行所 世田谷区豪徳寺一の八へ12

伊藤先生方 四二九 〇八六九

社会福祉事業団体

日本脳性マヒ者協会

青い芝の会

印責編集

三 誠 社

三〇〇 へへ〇九

振替 東京・一杉並

校成出版社

以上が施設に対する著書アンケートの集計

です。もちろんこれをもつてたゞちに施設を

どおこお云うのは早いと思ひます。たゞ我々

として考えなくてはならないのは、三十%の

人が施設を望んでゐるといふ事実、逆に云え

ば七十%の人達が無関心でして、いうこと

は、一たいどういうわけなのでしょうか。

三の入所の時期について、今すぐでもと

いう六人の人がいることに深く考えなくては

ならないと思ひます。しかし将来入所といふ

多くの人達は、施設をなにか未来に対する保険

と思われているようです。すべてが出来上りと

とのつてから入りたゞいといふのは、人間感情か

らすれば、当り前のことなのでしょうが……。

こうしたこゝろみは一度で結論を出すことは

ないと思ひます。我々は今后施設立準備を

進めるところを、な形でのアンケートを実

施するつもりであります。どかその節は百

名の御協力をお願ひ致します。

一一一

毎月20日発行 1冊15円

以上

絶賛発売中

北浦 雅子著

○生命の尊さ、眞実の人間愛を綴る
悲しみと愛と救いと

重症心身障害児を持つ母の記録

250

「この病気は現在の医学では、治すことができません」——冷酷な医師の宣告。一歳のとき尚ちゃんは種痘後脳炎に冒されてしまったのだ。その日から19年。それは母と子の「生きるための闘い」であった。冷たい世間の目にさらされながら。しかし、母雅子さんは負けなかった。「ヒサ坊はわが家の宝ですもの」と。そしていまでは、全国の重症心身障害者を持つ母と子の手をつなぐ会へと輪を広げていった。お互に励げまし合い強く生き抜くために。

四、最後の授産施設の場合の職種について現在すぐに入りたい者六、将来入所する者十六、入所しない者七、他一、と答えています。その他のフクロハリなど簡単な作業とがつていています。

五、当「青い芝」の会事務局では、広報部を通じ会報四十五号において、ランダム方式による名の方々に施設についてのアンケートをとりました。以下その結果の要点を記します。

一、本会で施設を持つことは必要にして、回答数三十四のうち三十が必要と思つたという回答を寄せて來ています。

二、次の施設の種類については前記の必要と答えた三十人の人のうち、保護施設九授産施設十三。その他八。となつていています。

三、引きつづき次の入所の時期に対しても、現在すぐに入りたい者六、将来入所する者十六、入所しない者七、他一、と答えていました。

四、最後の授産施設の場合の職種について現在すぐに入りたい者六、将来入所する者十六、入所しない者七、他一、と答えていました。

五、当「青い芝」の会事務局では、広報部を通じ会報四十五号において、ランダム方式による名の方々に施設についてのアンケートをとりました。以下その結果の要点を記します。

一、本会で施設を持つことは必要にして、回答数三十四のうち三十が必要と思つたという回答を寄せて來ています。

二、次の施設の種類については前記の必要と答えた三十人の人のうち、保護施設九授産施設十三。その他八。となつていています。